



大倉 俊氏  
ノエビア  
取締役副社長



紹介者

大江 匡氏  
プランテックアソシエイツ  
取締役会長兼社長

## 料理番組に揺らぐ一断想

#145

爽やかな5月の風を受けながら過ごした日々も束の間、気がつけば梅雨本番。原稿にペンを入れながら都心の空を覆う雨雲を見上げています。

そして、ふと思い出しました。今年寒さが緩んだ浅春の一夕、自宅の居室でくつろぎながら、くたびれた朝刊を斜め読みしていたときに、NHKの国民的長寿番組「きょうの料理」の材料表示が四人分から二人分へ44年ぶりに変更、世帯当たりの人数減少が理由、と書かれた記事に目を留めたことを……。その翌日にも朝刊コラム「春秋」に前日の記事から敷衍<sup>ふえん</sup>して「やがて料理番組も、お一人様の分量になりかねない」という幾分誇張した内容が書かれ、より一層印象に残ったからです。

「日本の人口は減ることはあれ、増えることはない」というのが現実的な課題ですが、一方で「世帯数が増加し、世帯当たりの人数は減少」というデータも開示されています。それが「一人前の時代到来の根拠」なのでしょう。先達が築いた高度成長時、国民全員が中流意識でがむしゃらに努力した時代は終焉し、「個の時代」の目を見張るばかりの到来です。「若いうちに所帯を構えて」が社会通念だった頃、「まだ独身です……」と恥ずかしがって自己紹介していた20代の男女の面影は今の若者にはなく、「アラサー・アラフォー」という一括りの総称<sup>ぼっこ</sup>の跋扈。しかも「独身の生活スタイル」も有れば、「離婚後両親と同居・別居、子供の有無」で区別された生活スタイルも有りということで、そのライフスタイルもさまざまで掴みようがない時代に今、私たちは生きています。そして世代を超えて身近な会話をしようと思って「昨日テレビで放映されていたあの番組観た？」と聞けば、「テレビで観た」は少数で、「携帯で観た」「パソコンで観た」と手段も違えば、「録画しているから未だ観ていないので結果は言わないで」ときて会話にもなりません。「皆、個々の好き勝手な時間に生きている」というのが2009年の一断面と感じ入る次第です。

そう考えて「インターネットもあって、時空を超えて仮想にも生きられる我々は、本当に幸福なのか？」という問いが浮かんだ矢先、辻井伸行さん(20歳)のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝のニュース。「どんな時代であっても、情熱を持って生きていけたら幸福なんだ!」と改めて強く思い、私の心の中でどんより重い雲と路面を騒々しく打つ雨音が、いつの間にか濃い夏の光を浴び凜と立つ木々の緑のさやけさに変わっているのを今感じております。

次回は 後藤 信夫氏(帝国データバンク 取締役社長) にご登場いただきます。